

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900109		
法人名	フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム おみがわの憩		
所在地	千葉県香取市野田714		
自己評価作成日	令和 6年 2月 24日	評価結果市町村受理日	令和 6年 3月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和 6年 3月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「ゆっくり・一緒に・楽しく」をモットーにご利用者様がサービスを提供されるだけの場ではなく、ご自身でできることを他のご利用者様や職員と「一緒に」そして「楽しく」できるように心がけている。職員全員が「ご利用者様ファースト」の気持ちを忘れず、生活の支援ができるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の良い点①法人理念1、介護のスペシャリストとして御利用者様ファーストである事を約束します2、御利用者様に対して「なぜ？」の心を持ち追求し、必ず笑顔にする努力を惜しみません3、社員、その家族の物心を追いつ常に笑顔になれる努力します。と決め接遇5つの原則を標語として掲げている。特に利用者の「なぜ？」に注意を向け些細な事にも疑問を持ち皆で検討する事で法人理念の実行で、笑顔に繋げる支援に力を注いでいる。②iPadの採用で情報が体重・食事量・排泄・水分摂取等多岐に亘り、継続的に管理されている為、体調変化などの気付きがし易くモニタリングの機能として十分に発揮されてケアプラン変更など柔軟な支援に繋がっている。③今年度も看取りの事例を経験し、家族から「ありがとうございました」「最後まで見て頂き大変お世話になりました」等感謝の言葉を頂き介護職の重要性を認識し又自信に繋がっている。事例検討を行なうことで課題・問題点の把握やスキルアップで職員の負担軽減に繋げ、利用者のニーズに対応出来るよう真摯に取り組んでいる施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念である「ゆっくり・一緒に・楽しく」を職員が意識してケアを行っている。また、ご利用者様のペースに合わせて可能な限り、一緒に家事などを行うようにしている。	法人理念3項目(表紙参照)と接遇5の誓いを標語として決め貼り出している。職員は「何故?」を絶えず考え自分で気付いた事を皆で話し合う事で支援の内容を向上させ、以て理念の実践に繋げている。	接遇5つの誓いを一つずつ期限を決めて取り上げ、毎朝朝礼時に唱和する事でより具体的な行動目標を職員が習得して、理念実践に繋がる事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野田つくし会に事業所として参加させてもらっている。コロナが落ち着いてから少しずつ参加をしていくようにしている。	「野田つくし会」とは良い関係が構築され継続している。災害時には協力して頂ける約束が出来ている。散歩時には挨拶を交わし、施設見学も受け入れる等地域との繋がりを大切にしている。夏祭り開催時にはお手伝いと参加を予定し楽しみな交流を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野田つくし会に事業所として参加させてもらい、GHのことを知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は約2ヶ月に1回開催し、施設の様況等報告している。	偶数月の第4火曜と決め、変更ある時は早めに連絡し参加し易いよう配慮している。市の担当者・地域包括・民生委員・区長・つくし会・家族が参加しヒヤリ・ハットなどの報告を行なっている。施設の改善に繋がるよう意見を促している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型サービス事業所連絡会で情報交換等している。	香取市高齢者福祉課・社会福祉課とは何時でも連絡が取れる関係があり、感染症対策や生活保護者の受け入れにも相談を受けている。地域のグループホーム連絡会に参加し、来年度の介護保険の改定についての勉強会に参加した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行っており、職員に周知している。	身体拘束委員会・虐待防止委員会を設置している。研修には法人からのマニュアルを下に研修が行なわれている。スピーチロック等には職員同士が指摘し合い、改善するよう皆で注意喚起を行なって防止に努めている。日中には施錠せず見守りで同行し拘束にならない支援を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターを提示して職員に周知し、研修なども行い、周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社内のzoom研修などで学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書について入居の際に説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体でブログ等のSNSに力を入れており、毎日配信している。その中で、ご家族様からご意見等頂き、運営に反映させていただいている。	法人の方針であるブログやSNSの発信で情報開示に力を入れている。見た家族から同じ服装の時があるなど意見があり改善に繋げる事もある。家族の来訪時には状況説明と改善の希望・要望を聞き取り支援に役立てている。又来られない家族には電話で報告し要望など聞き取りを行ない支援に活かしている。。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々で相談や意見の提供をもらったり、全体会議棟でも意見をもらうようにしている。	責任者が交代した今、職員との距離感を近づける為現場に出る機会を多く作り、意見交換を行い、事務所での何気ない会話から希望・要望を聞き取り意見が言いやすい環境作りが努力が払われている。出来る事は直ぐ実行して信頼関係の構築に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って仕事ができる様、給与、賞与に反映し人事課の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月管理者、リーダーの会議・研修をzoomで行っており、学んだことを全体会議、勉強会で職員と共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会等に参加させていただいている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にてご本人様の困っていることに焦点を当てながらアセスメントを行っている。また、表面上での問題点にも焦点を合わせて面談するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談・面談にてご家族様の抱えている不安や問題点に細かく聞き取りするように努め、その不安に対してどのように支援していくのか説明するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時や見学時に現在困っていることを聞き取り、入居するにあたってその問題点が軽減されるサービスの内容を説明する。また、入居の条件等に当てはまらないケースも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動(洗濯・掃除・料理等)ご利用者様、一人一人に合わせたケアを職員と一緒に行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様についての報告、相談などを行い、ご家族様から意見や要望が言いやすいように環境作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナも5類になり、面会等も徐々に実施できるようにしている。	施設の特徴であるブログ・SNSでの情報発信が家族から見ました等の意見が寄せられ関係継続に寄与している。面会時には居室に案内し会話が弾むよう配慮している。居室担当から毎月はがきで状況が伝えられ家族からは好評であり関係継続に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性等を大切に、フロアの座席など決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に、困ったことがあればいつでも相談いただけるようお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を大切にしながら、ご本人様が何を望まれているか、何を必要とされているかの把握に努めている。	入所時家族から生活歴・趣味・嗜好等を聞き取りフェイスシートやアセスメントシートで保管し、入所後はセンター方式のD3・D4を使い変化や気付きを集積してフロア会議で検討し思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を大切にしながら、ご本人様が何を望まれているか、何を必要とされているかの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時には生活歴・家族構成・1日のタイムスケジュールの把握を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様からアセスメントを取り、ご家族様や職員等にも意見を聞き、要望をケアプランに反映できるように努めている。	Ipadで個人の情報が継続的に集積され管理が行き届く仕組みが構築されている。体調変化時には今までの経過から対応が検討されケアプランの変更に繋げている。iPadを自由に見る事で気付く事が容易となる等施設の特徴となっている。又モニタリングのツールとして活用されケアプランの実行に繋げている。	Ipadで体重・食事量・水分摂取量・排泄などの情報が、継続して管理保管され何時でも、誰でもが閲覧出来る体制が構築されている。体調変化や排泄などの時のモニタリングとして活用され支援に活かされている。職員が同じように扱えるよう習熟する事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadを使用して記録を記入している。前にさかのぼって記録の確認が出来、食事量や水分量などグラフで比較でき、他業種と連携が取りやすくなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の要望にはなるべく応えられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪等地域の理美容店にお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関での往診でご利用者様の健康管理をして頂いている。また、希望に応じて馴染みの医療機関への受診も行っているご利用者様もいる。契約時にご家族様の希望を確認して対応している。	月2回の訪問診療と訪問看護師による健康管理や心身状態の報告・相談が行われている。体調変化時には24時間体制で医師に相談・指示を仰げる体制があり、外科・精神科の専門病院の受診も行われている。Ipadを導入して利用者情報の一元管理や情報共有が図られ、ダブルチェックによる誤薬防止等のITC化が進んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診先の看護師が月2回体調確認に来ており、変化や相談内容があればその都度伝えている。医師との連携も取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを提供しており主治医及び担当看護師と退院まで連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針や終末期についての意向確認を行うとともに、施設で対応可能な範囲の説明を行う。また、不可能になった場合についての支援についても説明している。ご利用者の状態が変化した場合には、考えられる今後の経過について、ご家族様や主治医と相談・連携を取りながら対応している。	現在まで3名の看取り実績がある。利用者が看取り対象となった場合は医師の指示・利用者の状態・家族の意向を下に対応マニュアルにて全職員で対応。家族面会の自由化や利用者の意向・好きな音楽・香り等を考慮して最大限の対応により家族からも大変感謝されている。また、事後の事例検討会にて今後の課題等も職員で共有されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを用意していて、全体会議などで心肺蘇生、AED使用方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などを実施して災害が起きた場合の対応等を職員間で共有している。また、BCPも作成し共有している。	オール電化で火災を発生させない設備になっているが年2回日中や夜間、火災や地震を想定した避難訓練を実施している。日頃から地域団体による避難の手伝い等の協力体制をとっていると共に、食料やカセットコンロ等の燃料・衛生用品・生活備品の備蓄点検を実施している。また、地域の特性を考慮したBCPも作成されている。	先ず失火を出さない事を大切に考え「点検チェック表」を作成しコンセントなどの埃の除去やリチウム電池の点検をする仕組み作りを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の正確に合わせて馴染みの言葉などを用いて声掛けなどを行っている。基本的に否定はせず、肯定することを心がけている。	全体会議にてケアの仕方、トイレ・おむつ交換等各事例や職員からの意見を下に利用者一人ひとりに寄り添った支援について研修を実施している。またユマニチュードについてもズームを活用して研修を重ね、言葉遣いや入室時のノック・トイレや風呂では扉を閉める等基本行動の徹底によりプライバシーに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせて、自己決定できることはご自分で選択できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、その中でご本人様の意思で決定して頂いている。食事の時間や入浴の時間等、気持ちや体調に合わせて変更することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整容はご自分でできる方はして頂いている。更衣もご自分でできるところはやっていただき、出来ない所をお手伝いさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などできる方は、職員と一緒にやっている。ご利用者様の嚥下状態に合わせて食事形態も考え提供している。	施設の畑で採れた季節野菜を使用した献立や園庭でのバーベキュー・たこ焼きの特別食、夏祭りやクリスマス等のイベント食で利用者が手伝い楽しみながら参加できる様々な工夫がされている。「刻み等」食形態の配慮と2週に1回の訪問歯科医による口腔体操や口腔ケアも実施されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分などiPadで記録しており、1日のトータルの水分など一目で見れるようになっている。その方に合わせたペースで提供行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の能力に合わせて口腔ケアの支援を行っている。また、訪問歯科のドクター・衛生士からの助言、指導ももらっている。		
43	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	D-3,D-4シートを活用し、てご利用者様の排泄リズムを把握してその方にあったパッド等を使用させて頂いている。また、排泄パターンを知ることで、その時間に声掛け行うようにし、出来るだけトイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表から利用者の排泄パターンを把握し時間で声がけしてできるだけトイレで排泄できるようにする、落ち着いた様子や立ち上がる等サインを見逃さないようにするなど細かい配慮で失禁回数も減少している。排泄状況もIpadにて職員間で共有し支援に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動量などを考慮して、便秘予防に努めている。コントロールが難しいご利用者様は、主治医と連携を取り出来るだけ自然排便できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴日を設けて入浴を実施している。その日の体調や気分に合わせて声掛けを行い、入浴が難しい場合は別日に実施することもあり。入浴時は、ご利用者様と職員が1対1での介助となるため、コミュニケーションの場としても活用している。また、その中でもしっかりプライバシーも配慮できるようにしている。	利用者の順番や時間へのこだわりも尊重し、入浴を嫌がる人には時間をおく・人を替える・トイレ時にそのまま誘導するなどの工夫をしている。浴室でのヒートショック対策、危ない方へは2人介助、浴槽に入れない方にはシャワー浴、皮膚トラブルの確認等安全や健康管理にも配慮して楽しみの場となるようにコミュニケーションをとっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の好きな時間にお休み頂けるように支援している。D-3,D-4シートを活用して睡眠時間の把握もするようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員が確認しやすい場所に置いていて閲覧して頂いている。内服時は、職員2人で確認して誤薬防止をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯干し、畳みができる方は役割として取り組んで頂いている。昔の話などをしながら職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナもあつたため、外出レクなどは実施できていない。しかし、天気の良い日等は、日光浴で玄関先に行き、外に出れるようにしている。暖かくなってからは外出レク等計画している。	天候や利用者の状態に応じて前庭でのおやつ・お茶のみ、公園散歩やスーパーでの買い物を行っている。今後花見やドライブ等季節感を味わい気分転換になる外出を企画中で、利用者が何を楽しみにしているかを考え実施できるように取り組んでいる姿勢は評価したい。またこれらの様子はブログで発信し、家族も楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナもあり外出レク等出来ていないため、お買い物実施出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から施設に電話があるご利用様もいるため、その都度対応できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースや廊下などは、季節感を感じられるように掲示物を飾るようにしている。また、ご利用者様と職員で協力して作成したものや写真等を飾り記憶への働きかけもしている。ブログにも都度その写真を載せている。	リビングはエアコンや加湿器での温度・湿度管理、窓を開けての換気が行われている。毎月利用者や職員で協力して大きな紙に季節を感じられる塗り絵や折り紙・写真等の壁紙を作成して掲示している。また、体操やゲーム、職員が工夫を凝らしたレクリエーションにより身体活動や頭の体操になる取り組みもされ、これらの様子はブログで家族にも発信されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様思い思いの場所で過ごしていただけるよう、こちらから場所は指定していないが、過ごされる場所は定着している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけご本人様の馴染みのものを持って来て頂けるようにお伝えしている。また、思い出の品や写真などもあれば持ってきてもらうようにしている。	居室への持ち込みは安全管理上問題がなければ特に制限を設けず、馴染みの物で利用者が安心して生活できる空間を作り出している。特に寝具は利用者が十分な睡眠がとれるよう個別に配慮している。居室担当者と家族が協力して整理整頓や導線の確保等安全にも配慮されている。夜間巡回では体位変換・トイレ誘導等も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーや廊下は段差はなく、車椅子の方でも自走できるようになっている。また、カレンダーを設置して日付がわかるように、時計を設置して時間が常にわかるようにしている。		

## 目標達成計画

作成日：令和 6年 3月 14日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員と会社・施設理念について話し合い共有して実践に繋ぐことが課題	職員と面談を行い、職員個人の目標を立ててもらい実行できるようにする	5原則ルールの唱和のなかで、「今日はこれを目標に業務にあたる」などその日の目標を出勤時に決めてもらうようにして、スキルアップしてもらうようにする。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。